
転生ものだってよコノヤロオオオ！！！

亜麻音

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生ものだつてよ「ノヤロオオオオオオオオオオオオオオ

【著者名】

ZZード

Z9334Z

【作者名】

亜麻音

【あらすじ】

とある事件に巻き込まれ私は死んだ!
そして命日が

まさかの私の誕生日!?

でも私は死んで

よかつたと思つてゐる！！

親に赤点のテスト見せずに済むし！
なんせ見兼ねた神が私に
誕生日プレゼントとして、私の大い好きな銀魂の世界に特別に転生
してくれるって言ったから！！！！

転生ものです！！！

ただの厨二病患者の末期症状が発動して作った駄作！パツと思い付
いてパツと書いた駄作なので期待はしないように！！

設定（前書き）

登場人物等の紹介です！！

設定

設定

主人公

・安西 茂玻

(あんざい しげは)

・年齢：17歳

・身長：162.8?

・性別：女

・髪型：肩より下

色は焦げ茶で

ストレートヘア

・特技：アーチェリー

剣道

(代々家が剣道で有名)

・好きな物

甘い物ならオール

ハンバーガー

ケーキ(特にチーズケーキ)

・嫌いな物

辛い物

マヨネーズ(まずいから)

納豆

・特徴

スタイル抜群!!

スリーサイズは…

ご想像にお任せします。

なるべく

胸は…でかく…（笑）

銀魂を愛して愛してやまないしK。口が悪い時は度々ですが普段はしつかり者！

・アゲン＝サイクレット＝ライマ

・性別：男
・通称：神

・茂玻を銀魂の世界に転生させた人？・好きな物

チヨコレート

チヨココロネ

チヨコチヨコ…

チヨコ類なら何でも！

・嫌いな物

・トマト

・季節でいうなら春（花粉症になるから…）
ていうか神も花粉症引くんだ…。）

年齢：4345歳

特技：かなりのゲーマー

特にP P P 3

縄跳び

餓鬼っぽいが神としての仕事もけやんとやっているー。

くらいでですかね?
後はご想像にお任せ

設定（後書き）

だいたい人物像は生まれましたか？

次は本文です

転生とこの間の「転生」（前書き）

皆さんいつもありがとうございます。はじめまして……。「薔薇獄少女」を書いています亜麻音です！

今回は新しい小説も新連載することになりました！

ダメダメ駄作ですが見ててくれた方々ほんとに感謝しています！！
それではどうぞ

「戎皮あつ！！！」

「お、大丈夫か？！」

「す〇すゞ」一枚車

「エ ひゞや 太 月 ごう

「正義」

出世が酷すぎる！！

おしゃべりの「ハノイ」

（世間でやーがやー頬にんだよ。なんでそんながわつこいの…。）

ていうか……身体痛つたあ……腹痛いし……なんか視界もぼやけてきたし……。

あらすじ

?

何だろう…。なんか今日記念日じゃなかつた?
凄く大切な……………?

てか

眠くなつてきたり。

၁၂၁၁

へりこ 良いよね?

道端……で寝……たつて……（

「ん……」

田が覚めた。今だ眠気眼の田を何度も瞬きをする。

そこには空でも

自分の部屋でも

ましてや教室の天井でもない。

「田……？」

辺り一面真っ白

上半身むくつと

起き上がらせ前後左右確認するが
やまつ白。

「何處……。」

「此処は狭間じや。」

突然何処からか声が聞こえ振り向く。

さつきまで居なかつた場所に

三

「神じゃ！！！！！」

見るからに

「じじいだから神じや

「私の心読めるの？」

私は問う

「ああ…わしは神だからなお前達の心くらい簡単に分かるわい

「だれ…お嬢ちゃん…此処狭間とか言つたけど…何私死んだの?」

「だからお嬢ちやん…じやなくて神じやーーー覚えとらんか?」

「うん! 嫌なくらい
めっちゃくちゃ
はつきり覚えてる。
確か私……」

遡ること10分前

私こと

安西茂玻は

ちょうど部活帰りだった。

私 合わせて仲良し三人組と

恋バナとか

友達が一つ上の先輩と付き合つてゐるらしく昨日デートしたとかキス

あああああ

そんな話で

キヤーキヤーしてたけど、正直

私は恋愛など

これっぽっちも興味がない。

一二次元一筋だしつ

裏ではそういう風に思つてゐるけど
まあ話は聞くだけ聞いてた。交差点が赤から青に
変わつて歩き出そと時、後方の方で奇声が走つた。何事かと思つ

て後ろ振り向いた刹那、

ドスツ！

黒いハンチング帽を深く被つてマスクとグラサンいかにも不審者っぽい男が私のすぐ横を走つていった。

それはもうスローモーションのようだ……。

私は何かお腹に違和感があつたから

視線を向けた瞬間

うわっ

どんぴしゃじやん！

私のお腹は紅く綺麗な円にみるみるうちに染まっていく。さすがに痛みがきつくてそのまま崩れ落ちるよつに倒れた。

友達は私の名前とか叫んでたけど

後助け呼んだり？

でも死ぬ間際つてドラマでも見たことあるけど

本当に意識朦朧とするんだね？まあそこからはじ想像の通り死んだつてわけ。

「みたいな感じ？」

「いやわしに問われても返す言葉がない。
ただ単に『愁傷様じや…』。」

「んで私は死んだからその『狭間』とかいつ空間に来て神と会った。

「

「左様。」

……

「いやいやだから私
『狭間』
来たから…？」

何ここで天国。『地獄行きたい場所選べとかそういうのじゃないくて?
もしかして
お爺ちゃんつて逝き先案内人とか?』
一人で納得して頭の横らへんに豆電球が輝る。

「……で?
「……で?
私の問いに思わず聞き返す神。

……
……
……

「だからお禰ひや ごじや なべて神……かあみ……」

「お禰れさん娘このか……わしがお禰れさを救つてやつたところのア

「……」

「くひ~」

「お禰れさん今田が向の田か忘れたのか……」

「うーんじゃあ

……

ポン……ポン……ポン

チ——ン！！

「建国記念の日」――――――――――

「違うわあああい！……」怒鳴り付けられた。その声に髪が靡く。

「じゃあ何よ。あんたの誕生日だとか……？」

八
ノ

（あつ！神も溜息つくんだ！！カメラ持つてきていいれば良かつた。

「10月22日……お前さんの誕生日だろ？」

「あつそくか！

「そりだつたね！私の誕生日かあ……。」

…………

…………

「誕生日いいいい！……！」

私は大声で発した！……！

「セリフじゃね前から自分の誕生日も忘れていたのか……。」

「……そ……そんな……それじやそれじや……」

私はケーキを食べられじゃないのよオオ！……！」

私は真っ白の床にはじつぱり叩く！

「そんないい！ ケーキ！

私のチーズケーキ！ 私の祝日！ …私の…私の…」

「で何処が良いんじゃ？

転生場所は？」

「…？」

あどけない声を出してしまったが
今は女がどうだこうだ関係ない。

「転生場所…？」

「いくら死んだ人間でも自分の命日が自分の誕生日とは可哀相であろう。それもお前さんはまだ若い。

青春を謳歌する年頃には最適じゃ。」

「じゃあ…」

「これはわしからの誕生日プレゼントじゃ！だから…

「じゃあ銀魂の世界が良い！！！」

「うん…まずは人の話を最後まで聞こう。」

そう私が夢見ていた世界。

銀魂

。

特に主人公の

坂田銀時

通称：銀さん

私の携帯には

八割方銀魂の画像で埋まっている。

銀魂シリーズのメール画も 数ある中だ。

そして

「そしてこの展開と言えばまさに“転生もの”とか
“クロスオーバー”とかそういうやつでしょーーー！」

」

こういう展開分かる！！

神の手違ひなどで

死んでしまつた人間を

別時限へと飛ばしその世界で自分として生きれる。

まさに

ヲタクとつて

夢の中のまた夢の話

私の場合
わけ
理由が違うが

“これは転生もの”

「で……出来るの？転生！……」

私はウキウキワクワクしながらその返答を待つた。
返答を待たずにも

言われなくても
返事は知ってる。

「可能じや。」

ほら来たああああ！！！

「じやあせつそくだが
銀魂の世界に飛ばす

意識飛ぶ可能性あるが
気をつけることじやん!」

「アイアイサあ……」

「それと最後に言ひとねえ……。」

「。

「えつ……今なんて?」

「神は一度は言わん!!
モタモタしてゐるつて
ほりつ……」

目線を下に向けた。
私も目線を下に向けると……

床が孤状に切り取られていた。私の居る場所だけ……

「げつ……」れつて……

「楽しんでくんじゃぞ」

手を振られた瞬間

そのまま一気に落下。

「いやあああああああ…………。」

数秒も経たない状態で女の姿は跡形も無く消えた。

いや落ちた……

神は小声で言った。

「HAPPY BIRTHDAY……」

……ヒ。

轟生とこの中の「轟生」（後書き）

どうでしよう？

素晴らしい駄作だったでしょうーーー！

次回も見てくれると嬉しいです（へへゞ

無事到着！？（前書き）

無事到着！？しなかつたら話すすまないじゃん！

無事到着！？

「クッ

首が唸つた。

私はいつのまにか団子屋の椅子に座つてみたらし団子を手に持ちながら寝ていた。

言い方を変えれば

いつの間にか銀魂の世界に来ていた。
顔を上げれば

餓鬼が駒回してたり

極道門つぽい兄貴等が公道を歩いてたり

着物姿の女性

笠を深く被つた男

黒い隊服すなわち

真選組の隊士の面々

そして

白を纏う隊服

見廻組の者共

げ
つ
…

マダオじゅん。

原作漫画・アニメで
見たことのある
銀魂お馴染み
キャスト達が歩いている。

叫びながら

席を立ち

团子を持ちながら両手を空へ上げる。

叫んだ瞬間の皆の視線が異様に冷たく
すぐに席に静かに座る

(ばつ：馬鹿私！—！—！

興奮しそうで叫んじゃつたじゃない！？
普通こしどあなれハ――普通こ

そう自分に言い聞かせていると

「あつ……あの……お客様……」

突然声を掛けられた。

団子屋の女主人。

「はい…？」

女主人は申し訳なさそうに

「あ……あの……なんか

変な御祖……いや……

……自称かつ……神?

とか申される方が

「団子屋で妙にテンションが高くて頭がいかにも逝かれてそうな女
が居たらこの手紙を渡してほしい」とのことなのですが……」

一枚の封筒を渡される。

そこにはでかく

『転生完了』の通知

との

整った正字。

(…何私そんなに目立つてた?

ていうか

「イカれてそう」

じゃなくて

「逝かれてそう…?」

まあ私一回死んでるから別に良いけど…。)

少々イラッときた

団子屋で大声出したことは謝るけど

人判断するの早くない?

私だつて決め付けるの

ましてやイカれてそうだつて思つた訳でしょ? 私を見て…

これでも顔には出さない派なので
笑顔を振り撒いた。

「どうもすみません…。

わざわざありがとうございます。」

目は笑つてないけどね
…

女主人に一礼し

受けとつた封筒の口部分を器用に開けると中には折り目正しく折られた一枚の紙が入つていた。

一枚の紙を開いて見ると

Dear 茂玻

よつ・わしじゅわし・・・」の手紙を読んでみて
ことは銀魂の世界に
無事到着したつか?

せつやくじゅが『狭間』
にいた時に
言い忘れてたことがある。

まづわしの名前じゅが神と呼んでも良いが出来ればアゲン・サイクレット・ライマ……アゲンと呼んでほしいのも願望の内じゅ。

次にお前の服装だが
いくらなんでもこの世界で女子高の制服はマズイだろうから勝手に着物を着てもらつた。

お前の

イメージカラーは桃色！！
だから桃色の着物だ！

んで次はお前の家のじゅが

? 万事屋に入る
? 真選組に入る
? 長屋に住む

に自分で決めて欲しかったのじゃが上からの指令で

?は仕事になせそうにならないからボツ

?すぐに斬られるからボツ

だから

?に決まってしまった。

すまん。

まあ住めるだけ有り難さを嘗め。

長屋の場所はわしが後で
直々に教える。

だがもしかしたら普通の
長屋より少し広いか・狭いか。
それを決めるのは上次第じゃ。

部屋の中はお前が前世にいた時のまんまじや。 なんの世界の流れ
じゃが

全て原作どおりに進むとは限らん
途中途中オリジナルせいが入つたり
たまにあやふやになつたりすることもあるが

まあとにかく
がんばる」といってや
ー。

後何かあつたらこいつに連絡しろ

TEL 4523

(死後腐
魅)

で覚えると楽
だ、や
ー。

じゅつ検討を祈る！

FROM
アゲン

「……」

手紙をサッと封筒に入れ懐にしまうと黙つて団子屋から離れた。

自分の座つていた

椅子の近くに小銭を置いて。

ピッポッパッポッ

プルルルル

プルル
……

「せこいから神の子事務所で、じれこまわ」

「アゲン…呼んで…」

「少々お待ちを…」

…

…

…

…

…

■ ■ ■ ■ ■

「もしも」

公道を歩いている者は突然でかい声を出した私に啞然とした顔を向けた…。だが今の私に他人など道路脇に生えてる雑草に過ぎない

「なんじゃ！……急いでかい声出しおつて」

「私のイメージカラーが桃色！！？冗談じやないわよ！！私は蒼が好きなの！！！そして前世でも蒼がイメージカラーだつて占い師に言われたし…」

「なんじゃ桃色が嫌いなのかな!?」

「桃かりが嫌いだから」

失礼じやろうがああああ！！！これとそれとは関係なかろうが！

安心せい！クローゼットの中に色々な着物入つとるから好きなもん選べ！だから軽々と芸能界の名前を出すな！！」

「ふーん…あ…別良いけど…後はあんたに用はない上呼んで…神
つてこの世界に行つたり来たり出来るんでしょ? だったら今すぐ此
処に呼んで」

「な……なんでじや？」

「なんでつて今すぐ殺すから！」

「ハアアア！？お前さん何考えたんじゃ！？！」

「何つて… だつてもしかしたら真選組とか万事屋に入れるチャンスがあつたのを上は私がヘタレみたいに思つてゐる訳で? を選んだつてわけでしょ?

勝手に…

電話越しからの殺氣漂つオーラが今にも画面から勢い良く溢れ出てきそうな「調こさすがのアゲンも恐怖心を覚え

「ま…待つんじや…上む上で声で呼べてな…。

只今外出中なんじや

か帰つてきたらこの世界に行つてくれと頼んでみる。」

「あ…… そんなのべく早くな。それともハーフれあ～」

「な…なんじや?」

鼓膜が破れそうなくらい大声で怒鳴られた。

45230 ハシマリノマサヒロ

「何もパクつておらん！！ていうか事務所が崩れたらわしら達終わ
りだぞ！！！死ぬんだぞつ！！！」

「なんじゃお主……一片死ぬか……！」

「あの、お、す、い、ま、せ、ん、」

「大体ねえ！！あなたの上司のメンジビーヴィ面してんのよ！！！
どつせダンブ ドア先生とんな変わんない面してんでしょ！！！も
う顎鬚ボーボーのフツサフサでしょ！！！それに」

「あのお聞いてます?」

「事務所つて何よ……！」

「神の子事務所」つて……！神と子の乳繰り上げた事務所つてこと
……！」

「神の子つて呼ばれて良いのは
「幸村精市様」だけ……！」

「テ プリだけよ……！」それに……。」

「あのお聞いて……」

ブチッ

「うわせえんだよ後うで……！」うかは今聞い合わせ中なんだよ……！
……用があんなら前で土下座……」

私はアゲンにとつとつ
青筋が浮き出てしまい

私を呼んでいる誰かせんにハツラツとこつものをしてしまった。

でも

それは間違いだつた。

「おこおこおめえ頭に何言つとこじや……ア、ア……。」

「え……」

「よおお嬢ちゃん……

喧嘩売つてんのか……

な
」

「私に優しく語りかけるその男はとてもがたいの良く背は…… うだな
…… 185は越えてるのではないか?」

「おい茂玻? ビーフしたん……」ガシャン……

静かに地に墜ちた携帯からは遠いアゲンの声が聞こえた。

などと落ち着いてる暇などない！――！

やってしまった！――！

極道もんこ

リーダーっぽい

兄貴共に

絡まれてしまった！――！

パンチな時ほひ自分におぬけの神せぬかね（前書き）

いやあ時間かかつたな。

ピンチな時ほど自分にお助けの神は座っている

「おい嬢ちゃんてめえ兄貴に向かつて何ナメた口聞いてんじやオラア！！！」

兄貴と思われる私の目の前の二つつい体形の隣には子分と思われる右目に傷跡を残した若い男性が私に鋭い殺氣と冷たい視線をおくるもう一人の子分が私に絡む

威圧感に押し潰され

たまらず下を俯く事しか出来ないというこの現状

だけぢやつぱり極道もん。 そつ簡単に返してくれない
このままじや 私…

ケジメ取られるううーーーー

「兄貴どうしやすかこの女ケジメ取らせますか？」

来ちゃつたああ……恐れた事態がああ

私の身体は恐怖…

ただ恐怖にだけに怯え震え上がる。

「まあ待て待て
なあお嬢ちゃんお前…」

突然、私が言うのもなんだけど兄貴が私に話しかける
それも視線を脚をじっくり見てゆっくり視線を上げ顔を見る。
私の眼に写るのは、ニヤリといやらしい笑みでこちらを見る兄貴の姿

「3サイズは？」

「えつ？」

子分と私は同時に声を出した。

「だから3サイズ！教えてくれたら今回の件は撤回する

よおおおっしゃああ……んとねヒップは…

なんて言えるわけないでしょおおお……

何処の世界に撤回するかわりに3サイズ聞く中年親父がいるかよ！

！－！

「早く教えてよ嬢ちゃん

！－！」

息を切らせ顔を火照らせながら鼻から息が上がる姿は極道もんとい
うよつ口親父。

「ええっと……」

「おいそこの女……わざと答える……サイズ言えば」の話はチャ
ラにしてくれるつってんだ！

運の付きだな！兄貴の機嫌が損なわんうちに言え……」

どこに鼻血垂らしながら聞く子分がいるよ……！

お前も結局知りたいんじやないかよ……

ふざけるなあ……！

私は愛した男にしか言わない主義なんだよ……！

でも言わないでいれば、
絶対ケジメ取らされるし

あ”あこの危機的状況どう切り抜ければああ……！

「ねえ嬢ちゃん？」

「おい茂玻！！何があつた」

早く兄貴に教える！！」

嫌おちやん？

—おい茂玻！！！

「茂玻！！茂玻！！」

「早々致意」

「兄貴の機嫌が損なわんうちにさつさとしろやああ！」

茂璇

アケンあんた空氣読め!!!!!!

! !

そして右目傷ありの子分！いや鼻血垂らし野郎！……！あんた
その鼻血キモいんだけど！－まじ子分とか有り得ない－！あんたら
纏めて吉原にでも行つて遊女と朝まで飲んだくれてれば良いんだよ

! ! !

大体ね！

100

「…………」

「…………。」

え……

おれか……私……

え……嘘……これ……まじで

は……刃向かっちゃった?

「兄貴……え……今兄貴の」と口親……父つて。」

「そして俺の……」

鼻血垂らしや……る……う……」

「え……ええっとお今は

つこ……ね……アハハあ……」

「はじめ聞子にしてんじやねえよ……」

や……せばこ……

「兄貴！…もう」の女ヶジメ取らせたほりが

「好きにしり」

あ…兄貴イイイイ…!!

「ああ嬢ちゃん…ビラケジメ取りたいかな？」

右目傷あり子分が腕回したり首の骨鳴らしたり指の骨鳴らしたり殴られる雰囲気に変わる。

そしてもう一人の男は
え…手袋に…針が…

いやいやいや…!!
このままじゃ絶対死ぬ…!!

「…やめて下さい…!!」

目をつむり殴られる恐怖を待つた

ゴカッ…!!

ゴガッ…?

つむつたは良いけど
痛みがない？殴られた感じがしない？

ゆっくりと眼瞼を開く。

「あ…」

兄貴は倒れていた。

兄貴の身体を摩る一人の子分。

一体田をつむつた瞬間この数秒に事はどのように進んだのか？

しばらくするとやっと立ち上がる一人の子分。

その眼は、殺氣漂いどす黒いオーラを放ちながら私を鋼の田つきで睨む。

「えつ？」

そして気づく。

私の手は

拳を作っていた。

拳からは白い蒸発したかのような煙がジゴーっと氣化する。

嫌な予感が的中する。

あの時

「や……やめて下さい……」

あの時……

言つた瞬間に聞こえた
ゴガツという音は

私が

兄貴にアッパーを…

アッパーをカットを

食らわせちゃつたんだ……！……！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9334z/>

転生ものだってよコノヤロオオオ！！！

2012年1月10日20時49分発行